



青山学院大学

〒150-8366

東京都渋谷区渋谷4-4-25

<http://www.aoyama.ac.jp/>

特集

AGU
AGU VOLUNTEER STATION

ボランティア・ステーション 活動報告

2015年度 給付奨学金・学業奨励賞

TOPICS

「第67回日米学生会議」に実行委員長として法学部出身の松居純平さんが参加
文学部英米文学科 映画上映&トマス・アレン・ハリス監督講演会開催
理工学部50周年を迎えて
海外インターンシップ報告

AGU Lecture

地球市民論入門



ウェスレー・チャペル(相模原キャンパス)

ボランティア・ステーション 活動報告

東日本大震災を機に正式に立ち上げられた青山学院大学ボランティア・ステーションは、東日本大震災の被災地での教育支援や経済支援活動を行う東北部、都内で福祉支援などを行う地域部、発展途上国で衛生・教育支援活動を行う国際部の3つで構成されています。所属する学生スタッフは、まずボランティアのニーズを調査し、企画の立案や学内外での広報等を行い、青学生がボランティアに参加する機会を提供しています。今年の夏も恒例となっている東北やフィリピンでのプロジェクトが実施されたほか、新たにインドネシアプロジェクトがスタートしました。それぞれのこの夏の活動を参加メンバーが報告します。

活動の流れ

- 2015年初～ 現地の視察(海外プロジェクトを除く)
- 3月 大学への企画書提出、緊急支援対策委員会での企画承認
- 4月～ 企画の活動計画策定

- 6月 実施決定、一般学生ボランティア募集
- 7月 各プロジェクトごとの事前研修実施
- 8月 活動

インドネシアプロジェクト

活動期間:2015年8月11日～25日 参加人数:9名

国際政治経済学部 国際経済学科3年
吉田 真弓さん 私立青山学院高等部出身



小学校で折り紙を教えている様子

ジョグジャカルタ特別州にある小さな村の村長のお宅で、現地の大学生と共同生活を送りながら、村内の中小企業の強化を目標として活動しました。現地の学生とディスカッションをして企業への提案内容を考えたほか、小学校で日本語の授業を行いました。そしてインドネシア独立記念日の祝祭の準備を手伝い、当日は現地の学生と共に劇や歌を披露しました。さらに小学校での歯科検診のサポートや現地での震災後に壊れた墓の修復など、現地の方々の要望に合わせ、様々な角度から村の復興支援に携わりました。今回は初年度ということもあり、現地の大学生に企画を一任していたので、次年度はこちらから積極的に活動内容を提案し、海外ボランティアを志す一般学生にも募集をかける予定です。

村人と共に生活し、村の文化を理解した上で共に目標を設定し活動内容を定めていくことは、先進国の一方的な支援の押し付けにならないボランティアにつながります。また、現地の学生は自身の専門分野に関連した活動内容を企画していたため、非常に専門性の高い活動内容が多かったことが印象的でした。私も大学での専門性をさらに深め、実践として生かせるようにしていきたいと思います。

フィリピンのシキホール島の小学校で教育支援を行いました。シキホール島の小学校で普段行われている授業は、黒板と鉛筆で受ける座学のみです。そこで、平日は小学校で理科の実験、体育の授業、鍵盤ハーモニカ演奏、ソーラン節踊りなどの教育支援を行いました。また、日本では高価なサプリメントとして知られている「カラムンガイ」という植物の商品化による収益が、トイレや貯水タンクの支援へとつながるため、子どもたちに「カラムンガイ」の重要性を訴え、一緒に苗を植えました。休日は教育委員会との共催で、小学校の先生方を対象にした鍵盤ハーモニカ講習会を実施し、先生方や教育委員会の方から感謝のお言葉を頂きました。なにより、子どもたちがキラキラと輝く笑顔を見せてくれたことが、今回の活動の大きな成果でした。

今後の課題は、異文化交流を「教育」という視点からフォーカスしていくことです。また、次年度はこれまでの活動の集大成ということで、小学生たちと踊ってきたソーラン節の学校対抗の大会開催や、一緒に植えた「カラムンガイ」の商品化の実現、さらに日本国内の販売にまでつなげていきたいと考えています。

フィリピンプロジェクト

活動期間:2015年8月14日～27日 参加人数:7名

総合文化政策学部 総合文化政策学科2年
新井 健斗さん 私立鎌倉学園高等学校出身



小学校で濾過実験を行っている様子

陸前高田プロジェクト

(岩手県陸前高田市)
活動期間:2015年8月1日～14日 参加人数:14名

経営学部 経営学科2年 田中 守さん
神奈川県立横浜緑ヶ丘高等学校出身



福祉施設にて、ぼや(肥料)作りの様子

活動内容は教育支援と経済復興支援の2つに大別されます。教育支援では、保育園や学童保育などの教育機関でのボランティア、中学生の学習補助を行うプログラム、生徒の社会復帰をサポートする適応指導教室における活動、そして現地中学校生徒会メンバーとのディスカッションを行いました。経済復興支援では、塩竈市の最大の魅力である新鮮な魚介類にスポットを当てた動画の取材、主要産業である漁業の養殖のお手伝い、農業支援、海岸清掃、お祭りのお手伝いなどを実施しました。今回は現地の方々の要望に応えるだけでなく、私たちが塩竈市に必要なものを提案・実行することができました。4年目の活動を終え、継続していく中で生まれた相互の信頼関係から、自分たちの目指す活動が行える環境が整いつつあります。そこで次年度以降はより発展性のある、5年後、10年後を見すえた活動を企画していきたいと思います。

今回のプロジェクトの準備や現地での活動を通して、私自身も成長できたと感じます。参加された方々もたくさんのことを感じ、震災に関連した支援のみならず、様々な社会問題を考えるきっかけになったのではないのでしょうか。

初日は、本学OBである陸前高田ドライビングスクール社長の田村満氏による講演を拝聴した後、嵩上げ工事の見学などのスタディツアーを開催しました。これは震災後の東北を初めて訪れる学生が多いため、まずは陸前高田という街をきちんと理解してもらうために実施しています。子どもを対象とした活動としては、気仙中学校3年生への教育支援、二又復興交流センターで夏休みの宿題を一緒に進めるなどの活動をしました。また、福祉支援としては「あすなるホーム」での作業の手伝いや、商品紹介のリーフレットを作成したほか、2011年に洗浄した写真を新しいアルバムに入れ替える作業を行いました。

今年の陸前高田プロジェクト教育支援には、定員の6倍にのぼる応募がありました。プロジェクトの規模拡大は望ましいように思えますが、規模を大きくして多岐にわたる活動を行った結果、本来の目的を見失ってしまっは本末転倒です。どこまで規模を拡大するか、その線引きが今後の課題です。また、首都圏でメディアの報道を見て「復興は順調だからもうボランティアは必要ない」とってしまう学生もいるかもしれません。そのため、夏期以外にも東北の現状を伝える場を設けることの必要性を感じています。

塩竈プロジェクト (宮城県塩竈市)

活動期間:2015年8月1日～22日、9月4日～7日
参加人数:のべ118名

文学部 日本文学科2年 今野 友彰さん
私立東北学院高等学校出身



中学生と行った防災ディスカッションの様子

ボランティア・ステーションの活動は随時、ウェブサイトで紹介しています。

本学ウェブサイト <http://www.aoyama.ac.jp/life/volunteer/volunteerstation/>
学生スタッフブログ <http://ameblo.jp/agu-vsta/>

特集 2015年度 給付奨学金・学業奨励賞

青山学院大学給付奨学金は、各学部・に在籍する2年生以上の学生で、前年度において卓越した学業成績をあげ、かつ人物において優れている者を対象に、有為な人材の育成に資することを目的に学資金が給付されます。また学業奨励賞も同様の資質を持つ学生を対象に、学業奨励に資することを目的に贈られます。2015年度は7月15日(水)に、青山キャンパスガウチャー記念礼拝堂にて授与式が行われました。2015年度対象となった2名の学生に、お話を聞きました。



三浦 眞琴さん
国際政治経済学部 国際コミュニケーション学科4年
青山学院女子短期大学・千葉県柏市立柏高等学校出身



昆 一弘さん
理工学部 化学・生命科学科4年
岩手県立盛岡第一高等学校出身

大学給付奨学金 もっと学びたいと短大から編入 世界がどんどん広がった

青山学院女子短期大学から、さらに学びを深めるため、国際政治経済学部国際コミュニケーション学科に2年次編入しました。学べる機会をさらに得られたので、学べることはすべて吸収しようと、予習復習を欠かさず、疑問に思ったことはすぐに調べ、それでも分からないことは先生に質問するといった具合に、勉強に対しては常に貪欲な姿勢で臨みました。もともと言語や文化に興味があったので、それらに関する講義は積極的に受講したほか、これまで未経験のジャンルも学んだことで視野が大きく広がりました。本学で吸収できることはすべて吸収できたと思っています。昨年、学業奨励賞を頂いたときに大学給付奨学金があることを知り、次はそれを目指そうと決めました。就職活動中も授業と重ならないようスケジュール調整し、工夫したため、授業を休んだのは1日だけです。給付奨学金の給付が決まった頃、体調不良だった父に加え、母も体調を崩してしまい、残りの学生生活に影響しそうになりましたが、給付奨学金のおかげで卒業まで安心して過ごせることになりました。また、以前から短期留学にも行きたいと考えていたので、卒業論文を書き終えたら、奨学金の一部を使って韓国に1カ月ほど語学留学に行くことを計画中です。給付奨学金を頂けたということで、それにふさわしい、またはそれを超えるような学生でありたいと思います。

学業奨励賞 知りたいという思いと楽しさが 学習と研究の原動力

幼い頃から人間の脳に興味を持っていて、どんな仕組みになっているのか知りたいという思いを抱いていました。高校生の時点で、大学では脳について学び、将来は研究者になりたいと目標が定まっていたので、化学・生命科学科に進学しました。高校で物理を学んでいなかったので少し苦労したところもありましたが、単位修得の難易度は度外視し、自分の学びたいことを優先して履修科目を選んだことが、結果として学習意欲の向上につながったと感じます。人は「やりたいこと、楽しいと思えること」なら積極的かつ継続して行えるもの]ですが、私にとってそれは「脳について学ぶ」ことでした。

今回の受賞は、自分のこれまでの取り組みが「賞」という形で認められ、非常に嬉しく喜ばしいことであると同時に、私に自信と責任感を与えてくれました。今後の生活の糧になることは間違いなく、このような賞を頂いたことに感謝しています。現在は平田普三教授の研究室でゼブラフィッシュを用いた脳の研究を行っています。昔からの目標だった人間の脳の機能について学ぶため、卒業後は大学院に進学し、研究者としての自分を確立していきたいと考えています。研究者としても一人の人間としても感銘を受けることの多い平田教授のもと、この恵まれた環境で、賞に恥じぬよう、残りの学生生活も向上心を持って過ごしていきたいと思っています。

[2015年度 給付奨学金・学業奨励賞 受賞者一覧] ※敬称略

〈大学給付奨学金〉

文学部／小出 裕紀
文学部／若林 知実
文学部／新井 由佳梨
文学部／濱田 のどか
文学部／岩井 康平
文学部／鍋島 祐希
文学部／西内 彩乃
教育人間科学部／片山 夏実
教育人間科学部／小笠原 史乃
教育人間科学部／井村 昌子
経済学部／浅井 健太郎
経済学部／山田 一慶
経済学部／伊藤 莉菜
法学部／鈴木 麻文
法学部／志村 敬一
法学部／五十嵐 咲
経営学部／下村 智恵子
経営学部／式 麻彩
経営学部／瀬良 有里奈
国際政治経済学部／目出 亮輔
国際政治経済学部／大沼 夏子
国際政治経済学部／三浦 眞琴
総合文化政策学部／深見 麻穂
総合文化政策学部／田中 絵里菜
総合文化政策学部／西川 玲奈
理工学部／和田 拓也
理工学部／安藤 早紀
理工学部／米川 陸
理工学部／三枝 郁
理工学部／岩崎 光
理工学部／伊東 聖矢
社会情報学部／今村 菜津子
社会情報学部／菱沼 阿連
社会情報学部／倉林 諒

以上34名

〈大学院給付奨学金〉

文学研究科／三輪 一貴
文学研究科／松岡 里実
文学研究科／岩井 沙織
文学研究科／石井 千紘
教育人間科学研究科／浅田 正寛
教育人間科学研究科／鈴木 研司
経済学研究科／冯 曉溪
経済学研究科／廣内 厚二郎
経営学研究科／田口 広樹
経営学研究科／西村 この実
国際政治経済学研究科／杜 世鑫
国際政治経済学研究科／姚 玉馨
国際政治経済学研究科／加瀬 貴志
国際政治経済学研究科／鈴木 陽平
総合文化政策学研究科／齊藤 颯人
総合文化政策学研究科／齋藤 和佳
理工学研究科／中村 凌
理工学研究科／黒田 航平
理工学研究科／加藤 佑太

理工学研究科／杉藪 智大
理工学研究科／長澤 徹
理工学研究科／武田 真和
理工学研究科／小花 祐輔
理工学研究科／藤田 一樹
理工学研究科／望月 貴博
社会情報学研究科／桑田 佑輔
社会情報学研究科／横山 拓
社会情報学研究科／濱野 英已
国際マネジメント研究科／船津 浩司
国際マネジメント研究科／森 敦子
国際マネジメント研究科／宇都宮 祐
国際マネジメント研究科／下山 恵介
国際マネジメント研究科／瀬川 幸宏
国際マネジメント研究科／西村 怜央

以上34名

〈学業奨励賞〉

文学部／飯塚 健介
文学部／小野寺 南美
文学部／藤井 希美
文学部／松山 智香
文学部／堤 ちひろ
文学部／寺内 杏那
文学部／小宮 未来
文学部／畑 奈津美
文学部／三浦 真由
文学部／菅藤 如水
文学部／川口 理歩
文学部／上等 由貴子
文学部／木村 柚紀
文学部／林 明日美
文学部／石澤 美咲
文学部／横井 優花
文学部／佐藤 みなみ
文学部／酒井 優清
文学部／小林 里砂
文学部／本澤 千宏
文学部／日高 響子
文学部／鈴木 梨歩
文学部／山本 萌子
教育人間科学部／川村 知代
教育人間科学部／坂本 顕大
教育人間科学部／佐藤 菜々子
教育人間科学部／廣瀬 太美
教育人間科学部／小林 絹
教育人間科学部／高橋 理沙
教育人間科学部／藤澤 愛
教育人間科学部／浅田 叶恵
教育人間科学部／新井 優香
教育人間科学部／松本 紗季
経済学部／飯田 夏帆
経済学部／笹原 千奈
経済学部／佐藤 弥寿治
経済学部／関 梓沙
経済学部／増山 尚大
経済学部／板野 湖子

国際政治経済学部／梅嶋 佳保
国際政治経済学部／東野 優美
国際政治経済学部／北田 ちなみ
国際政治経済学部／左近 祐太郎
国際政治経済学部／小寺 さやか
国際政治経済学部／長洲 彩香
国際政治経済学部／田中 綾
国際政治経済学部／寺門 夏生
総合文化政策学部／伊藤 駿
総合文化政策学部／千北 花菜
総合文化政策学部／宮本 真悠
総合文化政策学部／金子 愛弓
総合文化政策学部／小山 瑞希
総合文化政策学部／藤牧 望
総合文化政策学部／渥美 真彩
総合文化政策学部／村石 加帆
理工学部／小寺 和貴
理工学部／菅 祐亮
理工学部／平嶋 佑亮
理工学部／山田 祐輔
理工学部／昆 一弘
理工学部／利光 翔太
理工学部／本多 夏穂
理工学部／林 佑希
理工学部／平佐 利樹
理工学部／山田 大雅
理工学部／吉野 達紀
理工学部／田中 裕人
理工学部／仲宗根 禎人
理工学部／岸 一輝
理工学部／小須田 遼
理工学部／山浦 廉
理工学部／大山 芽依
理工学部／小林 祐斗
理工学部／宮原 拓磨
社会情報学部／尾崎 友理子
社会情報学部／佐々木 美紅
社会情報学部／徳元 佑紀
社会情報学部／小菅 優太
社会情報学部／田中 莉彩子
社会情報学部／五木田 梓
社会情報学部／吉田 雄大

以上124名



「第67回日米学生会議」に実行委員長として法学部出身の松居純平さんが参加

松居 純平さん
法学部 法学科卒業 私立国際基督教大学高等学校出身

2014年は日本側参加者、2015年は実行委員長という立場で2度参加しました。日米学生会議を知ったきっかけは、本学で開催された説明会でした。ポータルサイトで配信されていた情報が気になり足を運んだところ、同年代の実行委員の勇姿と、会議の創設81年の歴史に心が打たれ応募しました。ハーバード大学を含む様々な大学の学生が、日本と米国の多様な地域から72名も参加する会議は、日米学生会議しかいまだ知りません。

日米学生会議は、毎年夏に約1カ月間、日米両国で交互に開催されており、日米の参加者は心からの相互理解に挑戦します。参加者は7つの分科会に所属し、4都市を巡る中で、分科会とその土地特有のテーマについて議論します。また、夏の本会議に向けた準備としては、6月に防衛大学校研修として、将来日本の防衛を担う幹部候補生と共に日米同盟や安全保障のあり方について議論する機会もあります。私が参加者だったときの分科会のテーマは「移民の功罪と展望」でした。分科会メンバーとは毎週オンラインで調べたことを英語で発表・議論する工夫や準備を

重ね、米国側の学生との会議をスムーズに始めることができました。

私が実行委員長になってからは、前年度の会議の選挙で選ばれた日米の実行委員会を一つにまとめ、会議を成功させるために努力し、多くのかけがえのない経験をしました。価値観の違いが生む議論上の衝突からいつも亀裂が生じましたが、個人にではなく意見に対して批判をし続けたことが会議の成功につながりました。日本側の参加者は文系・理系を問わず、出身地も関東・関西をはじめ、福島県や岡山県、徳島県などの学生も参加しており、価値観や思考の違いにいつも驚かされました。また、米国側の学生との考え方の違いも日々感じました。その場の雰囲気や他者への配慮を重ねて話を進める日本と、ロジックありきで議論を進める米国では、議論の仕方が異なりました。しかし本会議の運営では、両国の良いところを取り入れ、効率的かつ質の良い運営ができました。

私が会議を通じて得たものは、まず「一生モノの友情」です。城山三郎氏の著書『友情 力あり』の中で、元総理大臣で第6回と7回の日米学生会議に参加した宮澤喜一氏が述べていますが、

日米学生会議には、求める者には心からの「友情」を育むことができる環境があります。次に、多くの議論を重ねることで、「本音で意見をぶつける対話力と、相手を心から理解しようとする傾聴の姿勢」を得ることができました。卒業後も日米学生会議で出会った仲間と共に過ごした日々は、私や仲間を一生支え続けていくものだといから確信しています。



本学で開催されたファイナルフォーラム



外務省主催のレセプション

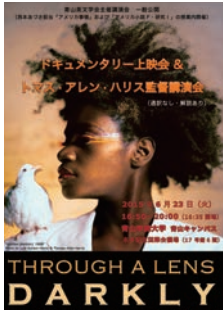
文学部英米文学科 映画上映&トマス・アレン・ハリス監督講演会開催

2015年6月23日(火)に本多記念国際会議場で、青山英文学会主催・在日アメリカ合衆国大使館助成によるトマス・アレン・ハリス監督のドキュメンタリー映画*Through a Lens Darkly: Black Photographers and the Emergence of a People* (2014)の日本初上映と同監督講演会を開催しました。視覚イメージと私たちの認識の複雑な関係を問い直しつつ、写真や映像を通して誰かの目が見たものを別な誰かの心に届けたいと語る監督に、参加者から熱心な質問があり、温かい拍手が送られました。

(文学部 英米文学科教授 西本 あづさ 記)

Through a Lens Darkly: Black Photographers and the Emergence of a People (2014)

アメリカ合衆国で奴隷制の時代から現在まで続く、黒人のイメージを巡る闘争に光を当てたドキュメンタリー映画。主流社会によってステレオタイプ化された恥辱的な黒人表象がもたらす痛みと、それに抗して尊厳ある自画像を残そうとする人々の誇りある闘いの軌跡を、黒人写真家の作品とアーティストや研究者へのインタビューを織り交ぜ、詩情豊かに描いています。サンダンス映画祭で公開以来、数々の賞を受賞。製作したハリス氏は、映画監督、写真家、キュレーター、文筆家としての活動のほか、カリフォルニア大学サンディエゴ校准教授、国際写真センター客員芸術員なども歴任しています。



理工学部50周年を迎えて

本学理工学部は1965年に創設され、本年50周年を迎えることができました。これも旧教職員、現教職員、卒業生並びに企業等の皆さまのご尽力のおかげであります。現在、理工学部には約2,700名の学部生と約350名の大学院生が在籍し、約135名もの教員のもと、充実した教育・研究体制を築いています。

すなわち、在学する学生諸君には、各学科でのカリキュラムを通じて基礎学力と専門性が身に付くことはもちろんですが、他学部・他学科の学生・教員との交流を通じて、豊かな教養やコミュニケーション能力等を養うことができる充実した教育体制が、ますます整っております。一例として最近の英語カリキュラムの改革についてご紹介します。英語カリキュラムは、2013年度入学生よりその習熟度に合わせて能力別3クラス制とし、1年次および2年次は全学科4単位必須としました。また、3年次は5種類10科目から2科目の選択を可能としました。その選択科目には短期海外語学研修なども含まれています。さらに、2014年度入学生より「理工学国際プログラム」や「理工学高度実践プログラム」などがスタートし、急速に進む国際化に合わせたカリキュラム改革を推し進めています。



式典(理工学部長式辞)



同窓会コーナー



理工学部50周年キャッチコピー提案者 機械創造工学科3年 力善 将太さん 理工学部50周年の歴史展示コーナー



懇親会(理事長祝辞)

本学理工学部は、旧教職員、卒業生、企業の皆さまのバックアップのもと、現教職員を中心にグローバルに活躍できる科学者・技術者を養成しようという熱い思いにあふれています。今後も理工学部50周年のキャッチコピー「50周年、さらにその先へ～未来の科学・技術のために～」にありますように、さらなる50年後の大飛躍のために総力を挙げて努力をしていく所存です。今後とも変わらぬご指導、ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

(理工学部長 橋本 修 記)

50周年記念特別講演会

日 時:2015年10月10日(土)
場 所:相模原キャンパス ウェスレー・チャペル
講演者:ノーベル物理学賞受賞者
名古屋大学未来材料・システム研究所
未来エレクトロニクス集積研究センターセンター長・教授
天野 浩 氏
テーマ:「世界を照らすLED」

50周年記念講演会

	開催日	講師・講演テーマ
第1回	2015年 4月11日(土)	本学陸上競技部長距離ブロック監督 原 晋 氏 「箱根駅伝優勝への道のりと今後の展望」
第2回	4月25日(土)	大阪大学大学院基礎工学研究科教授 石黒 浩 氏 「ロボットと未来社会」
第3回	5月20日(水)	東京大学先端科学技術研究センター教授 西成 活裕 氏 「渋滞の科学 ーどうすれば渋滞はなくなるかー」
第4回	6月6日(土)	JAXA宇宙科学研究所宇宙飛行工学研究系教授 「はやぶさ」プロジェクトマネージャ 川口 淳一郎 氏 「『はやぶさ』で実証された、 往復の宇宙飛行がかなえる、太陽系大航海時代」
第5回	7月11日(土)	太子食品工業株式会社 代表取締役社長 工藤 茂雄 氏 「全ての元は経営工学にあった!」
第6回	9月26日(土)	JR東海 執行役員 中央新幹線推進本部副本部長 水野 孝則 氏 「超電導リニアによる中央新幹線計画について」
第7回	11月14日(土)	富士フイルム株式会社 R&D統括本部高機能材料研究所 所長 伊藤 忠 氏 「フィルム技術で未来を拓く(仮題)」
第8回	12月12日(土)	シャネル株式会社 化粧品開発研究センター 所長 安藤 信裕 氏 「フランスと日本が作る化粧品は面白い!」

NEW 海外インターンシップ報告

2015年度から海外ビジネスインターンシッププログラムがスタートしました。これは海外での就業経験を通じて実践的な英語力を磨き、仕事に対する責任感や積極性、キャリア形成に必要なスキルを身に付け、グローバルな舞台で活躍する人材を育成することを目的としたものです。アメリカ(サンフランシスコ)、

アメリカ(サンフランシスコ)

自ら理想に近づく努力
海外で得た大きな収穫

大塚 麻莉奈さん
総合文化政策学部 総合文化政策学科2年
私立青山学院高等部出身

夏期短期留学を考えていたところ、海外インターンシップの募集を見つけ、興味を抱きました。総合文化政策学科でアートデザインやアートマネジメントを学んでいるので、最先端のアメリカは刺激を受ける国です。さらにインターンシップ先には美術館も含まれていたのも、そこで大好きな浮世絵に携わることができればという思いもあり、参加を決めました。しかし、配属されたのは「Habitot Children's Museum」という、5歳までの子どもたちが絵を描いたり粘土で遊ぶことを通して、感性に刺激を与え、発想力を養う養育施設でした。8月1日から36日間のインターンシップの中で、希望の職種と違うことは覚悟していたとはいえ、自分がアメリカへ何をしに来たのか見失って苦しい時期もありました。しかし、与えられた仕事をただこなすのではなく、自分の意見や希望を伝えて自発的に工夫して取り組んでいくにつ

オーストラリア(シドニー)

初めての海外がインターンシップ
価値観が変わった大きな経験

三地澤 拓也さん
経営学部 経営学科3年
私立桐蔭学園高等学校出身

8月3日から25日間、シドニーの「Amora Hotel Jamison Sydney」でインターンシップを経験しました。今まで海外に行ったことがなかったのですが、今年から始まった海外インターンシップ制度を知り、ただ旅をするのではなく現地の生活の中に入る体験がしたいと思い、参加を決めました。日本ではホテルのベル



ホストファミリーと共に



インターンシップ先のホテルにて

オーストラリア(シドニー)で年に2回、4〜5週間のビジネスインターンシップを経験します。この夏、第1回目となる海外ビジネスインターンシップに、アメリカに4名、オーストラリアに5名の学生が参加しました。現地での活動や参加して感じたことなどを、参加した学生2名に聞きました。

れ、仕事の内容も理想のものへと変化していきました。結果、数多くの実りの多い貴重な体験ができ、参加して本当に良かったと思っています。

現地では、午前中は施設内の管理、午後はオフィスワークを行いました。移民の親子のために英語以外の言語の絵本を集める企画では、地元の図書館や書店に対して一軒ずつ電話とメールで寄付の依頼をし、思った以上の成果を得ることができました。英語の上達だけでなく移民の文化や寄付に寛大なアメリカ文化に触れることができ、大きな学びでした。また、職場のポスの「社会に貢献するアート」という考え方にも、感銘を受けました。今回、非営利団体のNPOでアートマネジメントを初めて体験し、学んできたアートがビジネスとして社会で成立していることを実感できたのは大きな収穫です。



宿泊所にて世界各国からの留学生との交流



実際に寄付された新品の絵本たち

ボーイのアルバイトをしているので、インターンシップ先もホテルを希望しました。現地ではコンシェルジュやポーターとして、日本で行っている仕事とほぼ同じ業務を担当しましたが、接客方法が日本では考えられないほどフレンドリーなのは驚きました。平日は5時過ぎに起床、7時から15時まで仕事。買い物などを済ませて17時半頃帰宅、22時就寝という規則正しい生活です。ホストファミリーは最初はドライに感じたものの、一緒に過ごしていくうちに実際はとても親切で、家族のように対応してくださいました。現地で苦労したのはリスニングです。ホストファミリーはオーストラリア人ですが、職場は多国籍で、訛りの強い英語ばかりで、学校で習ってきたようなきれいな英語を話す人はほとんどおらず、聞き取れなくて何度も悔しい思いをしました。ただ、言葉がうまく通じない人との会話を諦めるのではなく、理解しようと努める姿勢は身に付いたと思います。日本と大きく異なる文化に触れたことで自分の視野が広がり、人間的に成長できたと感じます。今後はより大きな視点で物事を判断できるよう、この経験を生かしていきたいです。



AGU Lecture 078

地球市民論入門

高橋 良輔

地球社会共生学部 地球社会共生学科教授

「地球市民」とはまだまだ生成途中の考え方のため、講義では私たちの生活を枠づけてきたナショナリズムとの緊張関係も考慮しながら、「地球市民」がいかなる存在でありうるのかを追究しています。達成目標は政治理論、国際関係論、政治社会学などを組み合わせて、愛国心と世界市民主義の関係や、近現代の戦争の形態変化とグローバルな市民社会の発展、さらには内戦をしている国への人道的介入や国際援助は義務か?などについて、自分自身の意見を持てるように考えてもらうことです。そのため基本的には講義が中心ですが、グループ討論や視聴覚資料の分析などのアクティブラーニングも一部に取り入れています。この秋からは留学生の履修者が加わるので、視点の違いや国境を越えた共通点も実感してもらえればと思います。

今のところ先輩がいない新設学部なので、学生たちは自分たちで学部を創っていくという気概にあふれています。実践的内容、国際協力や国際交流・ビジネスの現場での活動に関心がある学生が多いので、これから始動する本学部の学生全員必須の

東南アジアへの半期留学やフィールドスタディが楽しみです。そして新たな実践を始め、それを発展させていくためには理論や歴史の裏付けも必要なことに気付いてもらえれば、大きく伸びていくことができるでしょう。

本学部の学生に期待する役割としては、それぞれのフィールドでの「草の根大使」になってもらいたいですね。仮に政府同士の関係や経済指標が悪くなったとしても、草の根レベルでの信頼関係があれば急に転覆することはありません。本学部では国際協力の専門家やジャーナリスト、社会調査士など、様々な将来の活躍のフィールドを考えることができます。どのような職業に就くのであれ、地球社会共生学部で学んだ「個人」として、世界で行動できるようになってほしいと感じています。



左から小西さん、菊池さん、ポーンパンガムさん

受講生の声 (地球社会共生学部 地球社会共生学科)

小西 由華さん

札幌市立札幌清田高等学校出身

高校では「グローバルな視野で行動する地球市民の育成」を掲げたグローバルコースを選択していたので、そこで身に付けた知識を大学で発展させたいと思い、この学部に進学しました。入学してみると、予想以上に「地球市民論」などで国際情勢について学べる機会が多いのが嬉しいです。高橋先生の授業も高校で培った知識が生かせたり、さらに発展的なお話が伺えたりと、楽しいと同時に考えさせられ、早く専門的な勉強をしたいという思いが強くなります。今後はアジア各国と一緒に仕事をするという形での支援を目指すため、ビジネスについてより深く学びたいと思っています。

菊池 祐奈さん

神奈川県立相模原中等教育学校出身

中学、高校も中高一貫教育の第1期生として学んできたので、新設の学部ということには全く抵抗がありませんでした。高橋先生の前回の授業は、地球市民を肯定する話で中心で聞いていて「なるほど」と納得したのですが、次の授業では地球市民を否定している書籍を紹介され、むしろ深く考えるきっかけになりました。その他、英語の授業もIELTS対策として面接の練習まであり、本学部での学びはとても充実しています。2年次後期での留学先は多民族が集まるマレーシアを希望し、もともと学びたいと思っていた比較文化についての専門知識を深めていきたいです。

ポーンパンガム・グンワディーさん

Thammasat University(タイのタマサート大学)からの交換留学生

交換留学でタイから日本にやって来て、2週間になります。まだ授業についていくのは大変で、分からない言葉もたくさんあるので、毎日帰宅後の復習が欠かせません。高橋先生は、難しい日本語はやさしい言葉に置き換えてくださったりと、留学生にも気を使ってくださいます。日本に興味を持ったのは、ドラマがきっかけでした。日本のドラマが好きでたくさん見ているうちに、日本語を学びたいと思うようになり、タイの大学でも日本語を専攻しました。これからの1年間で日本語に磨きをかけ、さらに日本の経済や歴史についても学びたいです。そして帰国後は通訳士を目指したいと思っています。

青山学院大学後援会報告

(決算・予算報告)

本学後援会は、本学の教育・研究に必要な事業を援助するために設立された支援団体です。在学生の保証人とその他有志が会員となり、会員から拠出される会費(在学生保証人分は学費に含まれています)をもって、課外活動や奨学金、傷害保険への全学生加入といった学生支援およびペアレンツウィークエンド(父母懇談会)の開催など、多岐にわたる活動を行っています。毎年度の事業内容は年1回開催の評議員会(総会)で審議・決定されます。このたび、2014年度決算と2015年度予算がまとまりましたので、ここにご報告いたします。

2014年度は、体育会強化指定部(硬式野球部、ラグビー部、バスケットボール部男子、バレーボール部女子、陸上競技部(長距離ブロック))、硬式庭球部、アイススケート部、ハイキング部、青山学院管弦楽団、ヨット部、パワーリフティング部の活動費用や、オール青山メサイア公演に一部補助したほか、各団体の指導者(監督、コーチ、指揮者など)への謝礼を拠出しました。2015年度もこれらの学友会活動を引き続き援助するほか、就職活動補助、ボランティア活動補助など、より充実した支援ができるように取り組んでまいります。

なお、昨年度より提案されていた会費の改定については、学部が10,000円、大学院が5,000円(2016年度入学生より)と決議されました。

(100円朝食実施報告)

本学後援会主催事業の一つとして、青山・相模原各キャンパス食堂にて100円朝食の提供が行われました。実施期間は2015年4月7日(火)～24日(金)(14日間)と5月11日(月)～29日(金)(15日間)。月曜日から金曜日、午前8時から1時限目が開始される9時まで実施され、メニューは日替わりで、米飯食とパン食が交互になるよう提供されました。

準備された朝食は両キャンパス合わせて期間合計7,250食で、実際の提供食数は6,629食(提供率:91.4%)でした。後援会は1食当たり200円の補助を行いました。

アンケートによると、「100円朝食を何で知ったか」という質問に対して「ポータルサイト」と答えた人が最も多く、ウェブでの情報発信の重要性がうかがわれました。また男子学生や、一人暮らしの学生の利用が高い結果となりました。

「100円朝食を利用後、生活面の変化があったか」という質問には、43.5%の学生が「生活リズムがついた」と答え、朝食を摂ることの重要性が改めて示されました。

2014年度 決算

収入の部

(単位 円)	
科 目	金 額
前 期 繰 越 金	5,648,237
会 費 収 入	103,935,000
貸 付 金 回 収 収 入	500,000
合 計	110,083,237

支出の部

(単位 円)	
科 目	金 額
学 生 活 動 関 係	
学 友 会 活 動 補 助	31,441,548
学 友 会 活 動 指 導 補 助	12,770,000
保 険 料	18,735,850
奨 学 金 事 業 補 助	10,000,000
大 学 行 事 補 助	413,506
アドバイザー・グループ会合費補助	475,000
教 育 環 境 整 備 補 助	7,000,000
奨 励 金	0
就 職 活 動 補 助	3,780,000
ボ ラ ン テ ィ ア 活 動 補 助	353,635
後 援 会 行 事 関 係	
ペアレンツウィークエンド費	14,453,825
旅 費 交 通 費	60,000
会 議 費	1,200,655
消 耗 品 費	12,221
通 信 費	30,005
そ の 他	
慶 弔 費	150,000
【 予 備 費 】	2,030,000
支 出 計	102,906,245
次 期 繰 越 金	7,176,992
合 計	110,083,237

2015年度 予算

収入の部

(単位 円)	
科 目	金 額
前 期 繰 越 金	7,176,992
会 費 収 入	104,670,000
貸 付 金 回 収 収 入	500,000
合 計	112,346,992

支出の部

(単位 円)	
科 目	金 額
学 生 活 動 関 係	
学 友 会 活 動 補 助	32,000,000
学 友 会 活 動 指 導 補 助	12,800,000
保 険 料	18,911,050
奨 学 金 事 業 補 助	10,000,000
大 学 行 事 補 助	1,000,000
アドバイザー・グループ会合費補助	660,000
教 育 環 境 整 備 補 助	5,000,000
奨 励 金	500,000
就 職 活 動 補 助	4,200,000
ボ ラ ン テ ィ ア 活 動 補 助	1,500,000
後 援 会 行 事 関 係	
ペアレンツウィークエンド費	16,500,000
旅 費 交 通 費	100,000
会 議 費	900,000
消 耗 品 費	50,000
通 信 費	50,000
そ の 他	
慶 弔 費	300,000
【 予 備 費 】	7,875,942
合 計	112,346,992

問い合わせ先
 庶務部庶務課 TEL:03-3409-8568

青山学院大学教育振興資金

保証人の皆さまのご支援を学習環境および生活環境の改善につなげます

日頃より青山学院大学の教育研究活動に関してご理解、ご支援を賜り厚く御礼申し上げます。さて、本年5月に募集いたしました2015年度の「青山学院大学教育振興資金」に対して過分なるご寄付を頂きまして誠にありがとうございます。

これもひとえに同振興資金募集の趣旨をご理解いただいた上でのご支援であり、身にあまる光栄に存じます。

2015年度は、前年度に引き続き、教育研究環境の充実に向け、図

書館備品のリニューアル、進路就職支援システム「Web Ash(ウェブアッシュ)」のリニューアル、さらに、グローバル化推進への対応として、学生の英語諸資格試験の受験・講座受講の負担軽減など、学習環境および生活環境の一層の改善に取り組んでおります。

この場をお借りして御礼申し上げますと共に、ご寄付くださった皆さま方のご芳名を本誌に掲載させていただきます。

ご芳名掲載対象者 **406名** ご芳名掲載者 **109名** 匿名者 **297名**

ご芳名掲載対象 2015年4月1日から9月10日までのご寄付者 (五十音順)

あ	浅野 道雄 様	き	川崎 昌夫 様	こ	竹邑 義和 様	ふ	藤川 陽祐 様
	池田 卓弘 様		木戸岡 定利 様		田中 雅孝 様		古内 信太朗 様
	石井 光人 様		草野 耕一 様		田中 理江 様		堀之内 泰壮 様
	石神 猛 様		小池 一正 様		谷川 英樹 様		前田 達也 様
	石川 行修 様		古賀 英司 様		谷本 和大 様		牧島 賢治 様
い	石川 正俊 様	く	小田部 道子 様	こ	千葉 圭悦 様	ち	正木 康浩 様
	石塚 光雄 様		小林 眞伸 様		土田 正則 様		松原 正裕 様
	植田 祥夫 様		込山 一久 様		椿 浩 様		松宮 正幸 様
	上西 壮 様		齋藤 敦 様		手塚 則之 様		真鍋 康二 様
	上野 公也 様		齊藤 雅之 様		鳥村 絹子 様		三浦 嚴嗣 様
う	鵜野 徳文 様	さ	酒井 忠司 様	さ	内貴 淳史 様	み	水谷 実 様
	浦上 博史 様		坂元 博文 様		中 達哉 様		宮腰 敦 様
	遠藤 久俊 様		佐藤 孝夫 様		中嶋 賢 様		宮野 学 様
	大木 道 様		佐藤 博 様		中嶋 功司 様		村田 潤 様
	大滝 優子 様		佐藤 裕一 様		仲條 幸敏 様		村松 修一 様
え	大竹 香菜子 様	し	佐野 哲也 様	し	中田 昭利 様	も	本井 浩二・眞理子 様
	大谷 真樹 様		佐野 久 様		中根 義雄 様		森 邦晴 様
	大谷 隆司 様		猿田 正祝 様		長野 次郎 様		森田 昌次 様
	大野 高宏 様		芝原 俊晴 様		中村 篤 様		柳沼 芳裕 様
	大野 忠 様		杉江 明美 様		西村 礼子 様		山口 靖代 様
お	大場 規之 様	す	鈴木 謙一 様	す	登 利美 様	の	山田 みゆき 様
	小川 才也 様		鈴木 尚敏 様		畑中 直道 様		山本 純子 様
	奥村 実 様		高取 和幸 様		花井 好機 様		行好 潤介 様
	小澤 健一 様		高野 浩二 様		濱野 多喜生 様		横地 太郎 様
	小野 悟 様		高橋 郁夫 様		林 俊介 様		吉田 博史 様
か	加藤 鉄志朗 様	た	高橋 幸雄 様	た	原 仁 様	ゆ	
	金森 伸一 様		竹内 文崇 様		土方 圭以子 様		
	鎌田 美乃里 様		竹田 誠 様		平川 直希 様		

※ご芳名掲載の意思表示は「教育振興資金ご寄付のお願い」に同封の振込用紙にて依頼しております。希望されない方、意思表示のない方、また、銀行のATM、インターネットバンキングを利用してご寄付され、意思確認ができない方につきましては、匿名で掲載させていただきます(今回匿名掲載された方で、ご芳名掲載を希望される場合は、政策・企画部までお知らせください。次回掲載させていただきます)。

問い合わせ先 政策・企画部 E-mail : p-office@aoyamagakuin.jp TEL : 03-3409-9612



エバーグリーン

青山学院 EG 本棚募金



Aoyama Gakuin Evergreen Hondana Bokin

～不要になった本が在校生を支援するために役立てられます～

「青山学院EG(エバーグリーン)本棚募金」が始まりました。

この募金は、皆さまのお手許にある不要になった書籍やDVD・CD・ゲームソフト等の売却額が青山学院への寄付となって、在校生の学習・教育研究を支援することに役立てられる取り組みです。

STEP① 梱包

不要になった書籍・DVD・CD・ゲームソフト等を段ボール箱に詰めてください。

STEP② 申し込み

ウェブサイトか電話で提携会社バリューブックスへ申し込むと、宅配業者がご指定の日時・場所に伺います。5点以上から宅配の費用はかかりません。

STEP③ 寄付

提携会社バリューブックスにて買い取られ、その売却代金が青山学院使途指定型募金(教育・研究活動支援)に寄付されます。

≫詳しくはウェブサイトをご覧ください。 <http://www.evergreen-hondana.jp/>

青山学院募金サイトがスマートフォンに対応しました

青山学院募金サイトが、アクセスするスマートフォン等の端末画面サイズに最適化されて表示されるようになりました。アクセスするデバイスの画面の幅によって、自動的にPCサイトかSPサイトを表示させるものです。毎月1,000円からのご寄付もスマートフォンから簡単に申し込むことができますので、エバーグリーン募金にご支援を賜りますようお願いいたします。

資料請求
問い合わせ先

青山学院エバーグリーン募金推進本部
TEL : 03-3409-6208 FAX : 03-3409-3890
E-mail : bokin@aoyamagakuin.jp
<http://www.aoyamagakuin.jp/support/index.html>

≫インターネットからのご寄付も可能です。



Club & Circle 29 リズムマンドリーノ

マンドリンの音色の美しさ、奥深さを感じてみませんか。

リズムマンドリーノは現在、マンドリン、マンドラ、クラシックギターを使用して合奏を楽しんでいるクラブです。練習は週に2回、青山キャンパスの教室で行っています。年間の活動としては、他大学との合同演奏会(5月)、大学主催のペアレンツウィークエンドでの演奏(6月)、青山祭での演奏、定期演奏会(各11月)があります。また、8月には、1・2年生を対象とした他大学との交流合宿にも参加しています。

マンドリンはマイナーな楽器ですが、その音色には、心癒される美しさと奥深さがあります。私が初めて合同演奏会に参加した際には、それまで経験したことのない低音パートや大人数での演奏のハーモニーに、その楽しさや、マンドリンの奥深さを改めて実感しました。少しでも興味がある方は、11月15日(日)に本学ガウチャー記念礼拝堂で定期演奏会を行いますので、ぜひお気軽にお越しください。

(部長：経営学部 経営学科3年 寺田 千晶 記)



AGU NEWSについて

青山学院大学では、大学広報誌「AGU NEWS」を年4回(2月、5月、7月、10月)発行し、在学生の保証人の方々へ送付しています。また、在学生を対象としてキャンパス内専用スタンドにて配布しています。

本誌掲載の記事、写真、図版などの無断転載・複製を禁じます©2015青山学院大学

- バックナンバーは、本学ウェブサイトでご覧いただけます。
- 確実に保証人の方々へお届けするため、住所が変更になった場合は、学生ポータルを利用し、**学生本人が変更手続きをしてください。**



発行元：青山学院大学 入学広報部
TEL : 03-3409-8627

●2015年10月31日発行●